

富山市都市マスタープラン(素案)の 概要について

和合地域・富山北部地域・水橋地域

- ・都市計画法第18条の2に基づき定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」であり、概ね20年を見据え、本市の都市づくりの方針を示すもの
- ・上位計画である富山市総合計画と都市計画区域マスタープラン(県)に即したもの

<対象区域>

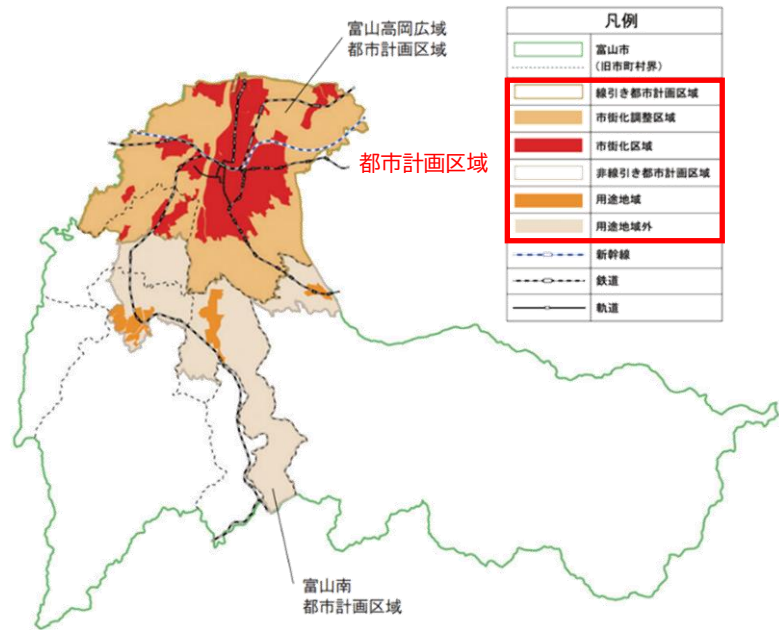
市全域

(都市計画区域を重点的に扱う)

<目標年次>

概ね20年後

2045(令和27)年



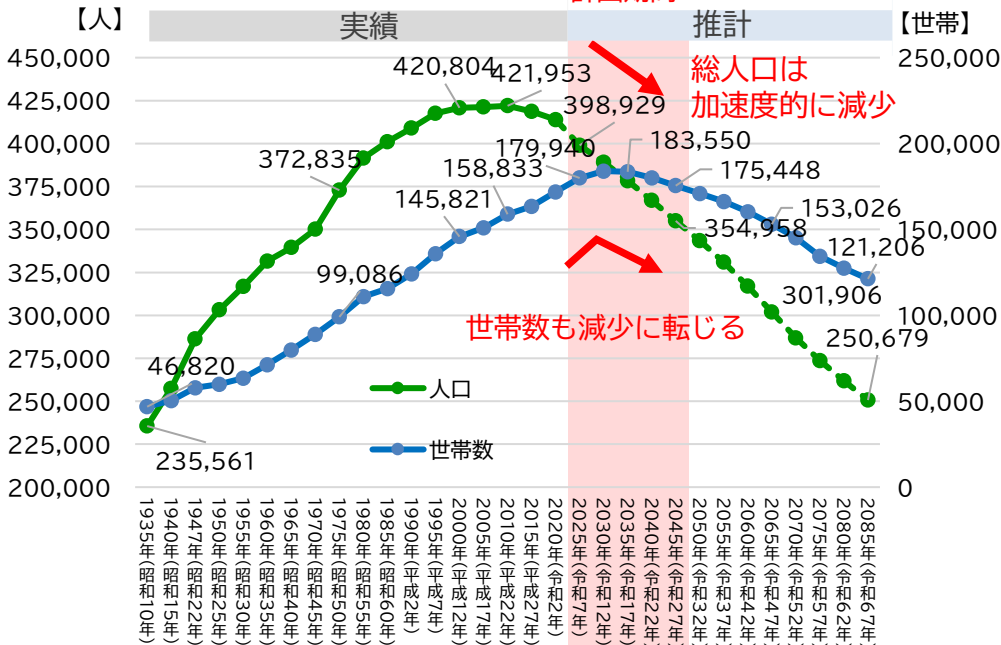
第Ⅰ編 全体構想

現状の課題認識

- ・「コンパクトなまちづくり」により、市街地の外延化が抑制され、人口の低密度化に一定の歯止めがかかった持続可能な魅力ある“まち”への転換が進んでいます。
- ・しかし、今後、加速度的な人口減少と世帯減少への転換は、空き家・空き地の増加を促すなど、市街地に様々な影響を及ぼし、“まち”の問題は、より複雑化・深刻化することが懸念されるため、「市街地の人口密度低下」と「都市管理コストの上昇」を抑制させながら、既成の市街地や資源を活用して魅力が高まるまちづくりに取り組む必要があります。

<人口と世帯数の実績と将来推計>

計画期間



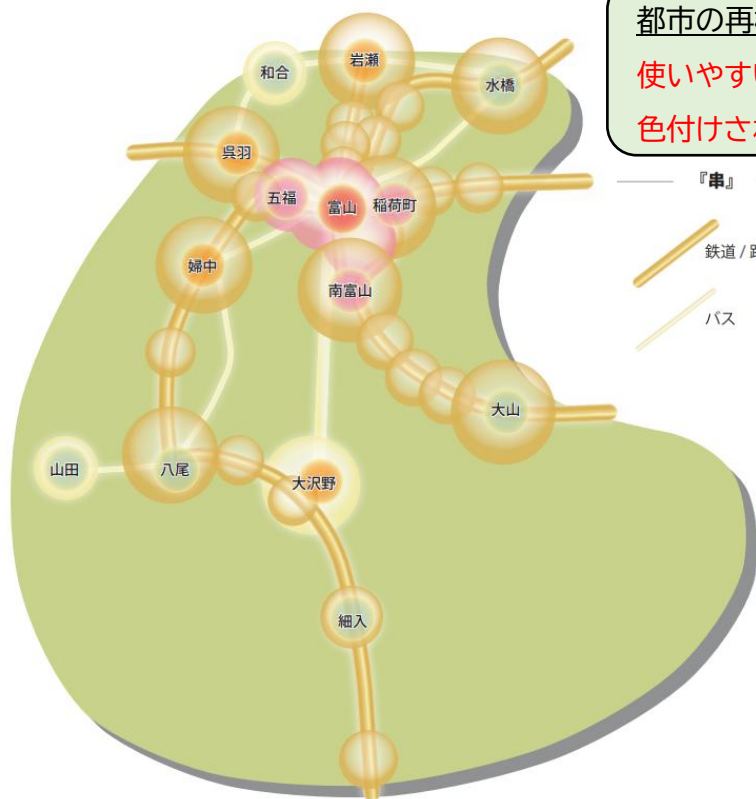
<課題認識>

- ①公共交通の持続性が低下し、極めて生活しづらい“まち”への転換
- ②“まばら”な市街地と“まち”の老朽化による生活環境の悪化
- ③拠点性の低下による都市全体の活力と魅力の喪失
- ④社会情勢の変化等による都市環境の変化

出典:実績(1935年~2020年)は国勢調査

推計は令和6年度富山市将来人口推計報告書(2025年~2070年)及び独自推計(2075年以降)

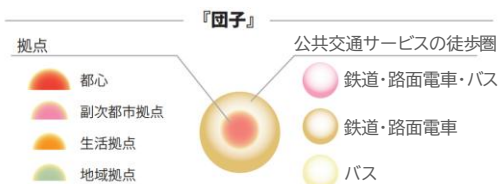
公共交通の活性化と、その沿線に居住や都市機能の集約を図るコンパクトなまちづくりを継続し、地域の資源を活かして魅力を最大化する拠点形成や既成市街地の利活用により、『公共交通を軸とした都市の再構築による拠点集中型のコンパクトなまちづくり』の実現を市民とともに目指す



都市の再構築により目指すお団子と串の都市構造

使いやすい「串」: 利便性の高い公共交通

色付けされた「お団子」: 串で結ばれた特色ある徒歩圏

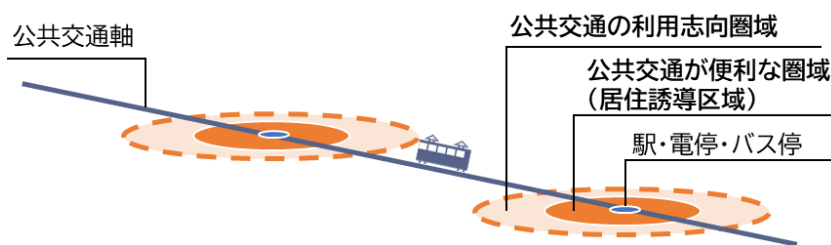


『都市の再構築』

既成市街地の「土地や建物」、「公共交通や道路・公園などインフラ」、「既存の都市機能や地域資源、自然環境」などの都市アセット(資産)を最大限に活かし、都市に新たな価値を付加する取組み。

- ① まちづくりの基軸となり多面的な価値をもたらす「公共交通の活性化」
- ② 市民が公共交通利用を意識した居住地選択ができる「公共交通志向型居住の推進」
- ③ 地域の個性を活かして魅力を最大化する「中心市街地をはじめとした拠点の形成」
- ④ 人口減少下における道路・土地・建物等の総合的な「都市マネジメントの推進」

<公共交通志向型居住の推進のためのエリア設定>



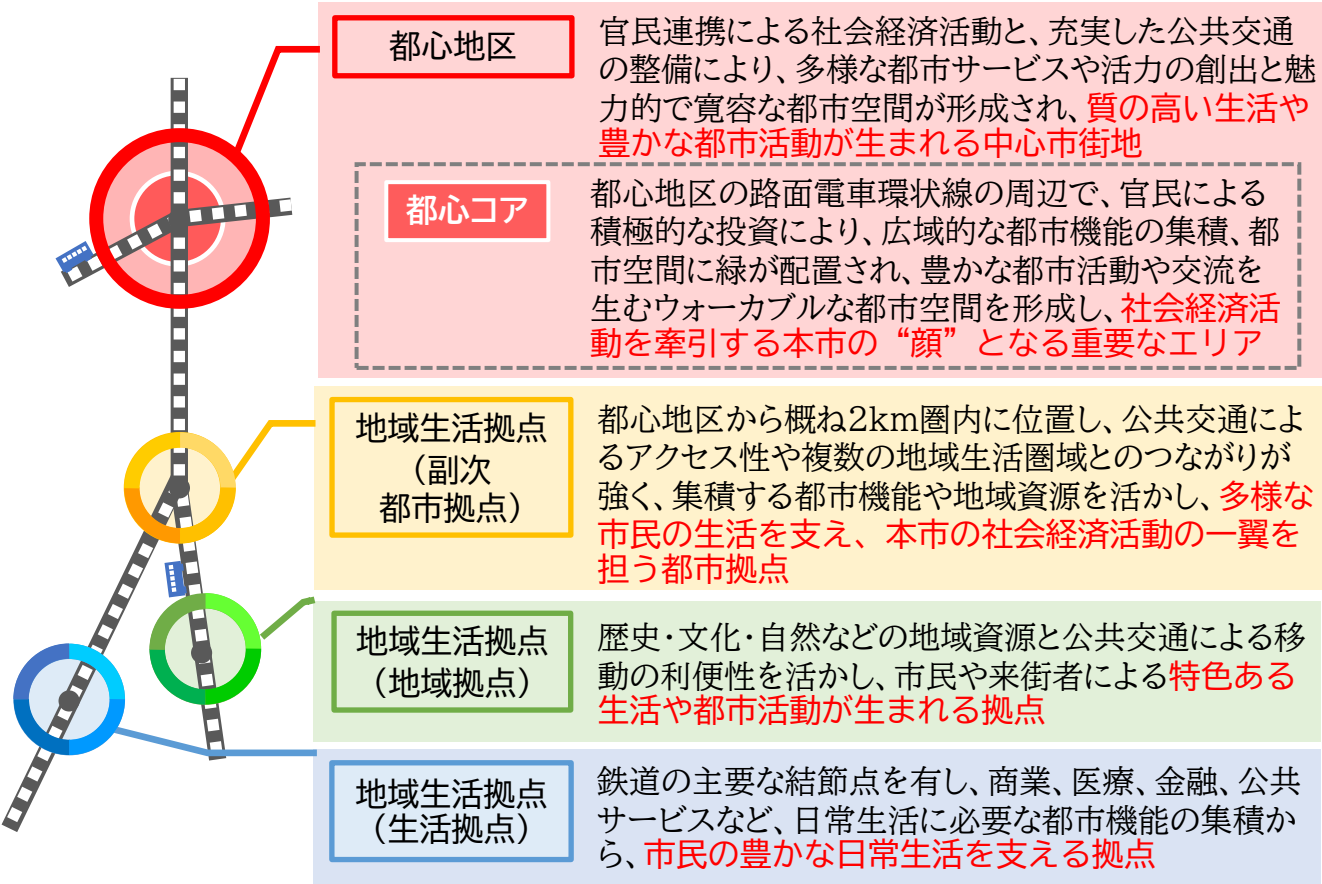
【公共交通の利用志向圏域】

公共交通軸の鉄軌道駅から概ね750m、バス停から概ね600mの範囲で、公共交通利用を意識した市民生活の醸成を図る圏域

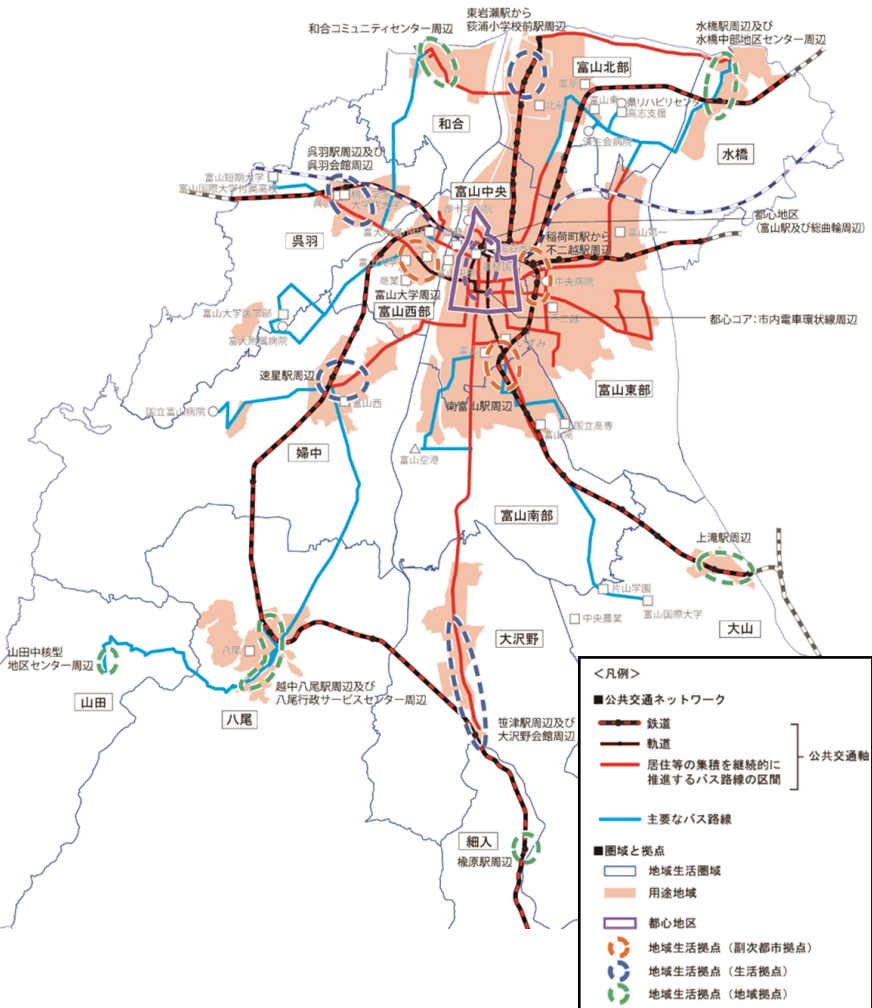
【公共交通が便利な圏域】

都心地区と公共交通軸の鉄軌道駅から概ね500m、バス停から概ね300mの用途地域等が定められた徒歩圏で、都市の諸機能や居住を誘導する圏域

＜地域生活拠点の役割の区別＞



＜公共交通軸と地域生活拠点＞



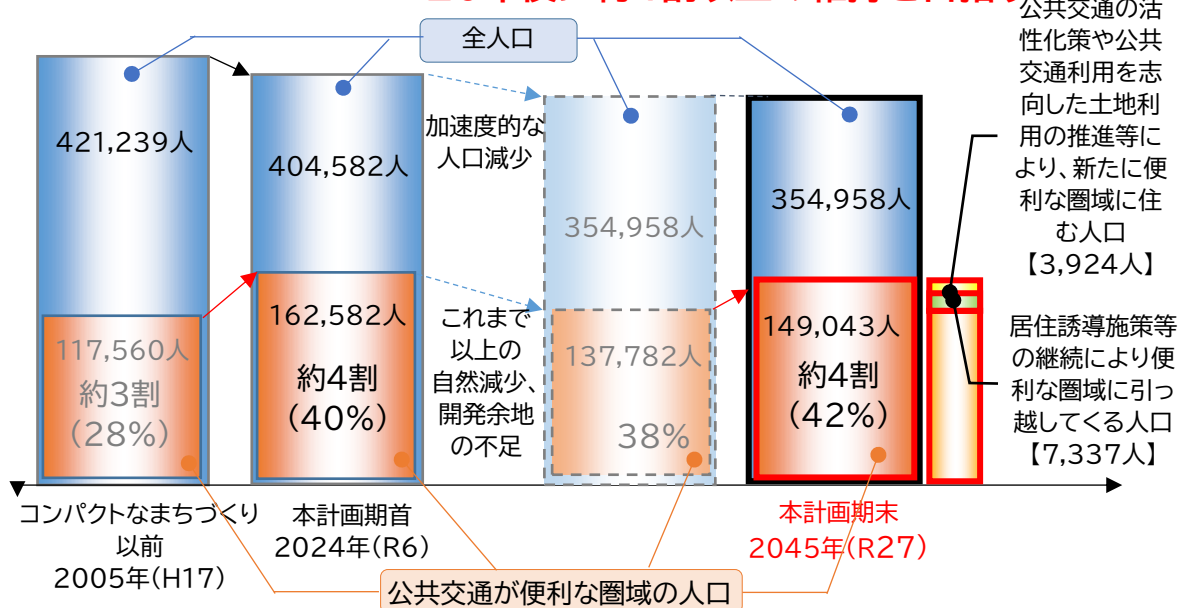
地域名	地域生活拠点の位置
富山中央	都心地区 (富山駅及び総曲輪周辺)
富山北部	東岩瀬駅から萩浦小学校前駅周辺
和合	和合コミュニティセンター周辺
呉羽	呉羽駅周辺及び呉羽会館周辺
富山西部	富山大学周辺
富山南部	南富山駅周辺
富山東部	稲荷町駅から不二越駅周辺
水橋	水橋駅及び水橋中部地区センター周辺
大沢野	笹津駅及び大沢野会館周辺
大山	上滝駅周辺
八尾	越中八尾駅及び八尾行政サービスセンター周辺
婦中	速星駅周辺
山田	山田中核型地区センター周辺
細入	檜原駅周辺

まちの目標

- ①車を使わなくても安心・快適な暮らしを実感できるまち
- ②市民のライフステージ等に応じた多様な住まい方が選択できるまち
- ③地域の個性が発揮された拠点集中型のまち
- ④持続可能で災害に強い、安全・安心のまち
- ⑤豊かな自然を守り育てる、環境に優しいまち

公共交通が便利な圏域に住む市民の割合

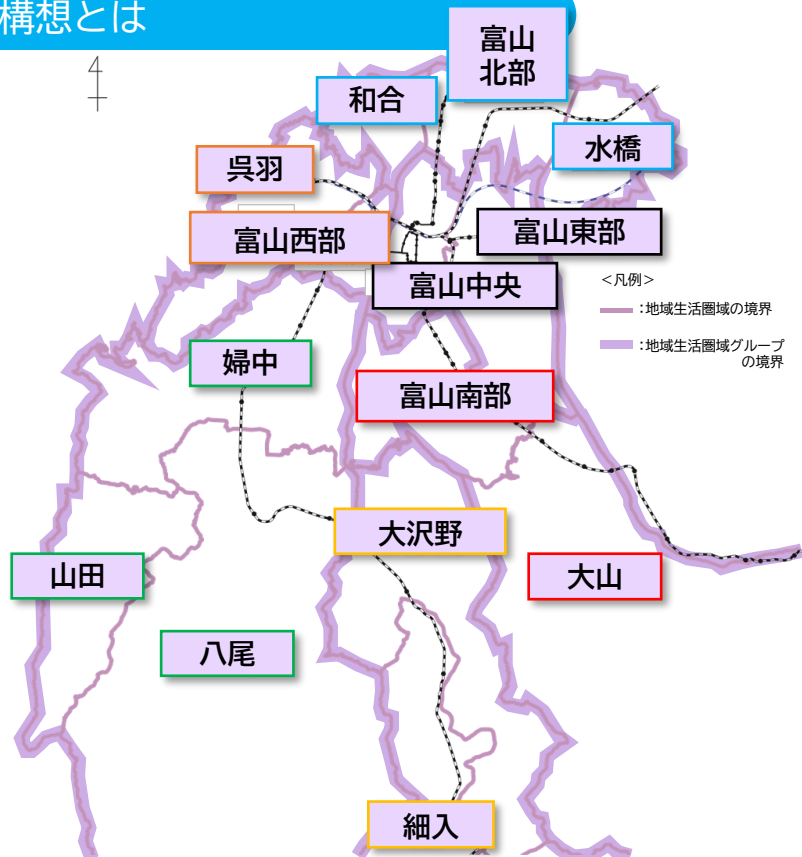
～20年後に約4割以上の維持を目指す



・14の地域生活圏域の現状を踏まえ、全体構想における位置づけ、市民アンケート結果や地域間のつながり(6つの圏域グループ)を踏まえつつ、市民ワークショップで出されたアイデア等を参考としながら、地域のまちづくりの方針を明らかにするもの。

<地域別構想の役割>

- ①各地域のまちづくりの基本的な方針
- ②各地域の都市計画や基盤整備の主な内容

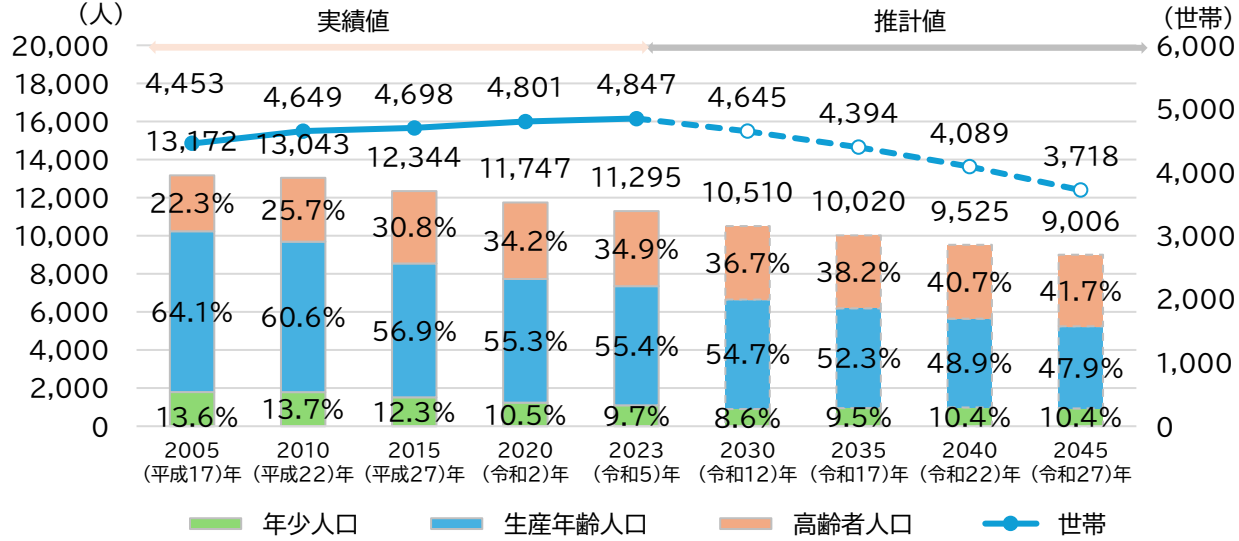


1 地域の現状

沿岸部に市街地が形成され、漁港や海水浴場、温浴施設などがあるとともに、その周辺には発電所や企業団地が立地しています。また地域の南部は田園が広がっており、農作物の販売施設や酒蔵等があります。

<人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し>

人口は減少傾向であり、2023（令和5）年の人口は11,295人、高齢化率が35%と3割を超えています。今後も人口は継続して減少し、世帯数も減少に転じ、高齢化率も4割を超える見込みです。



<市民ワークショップでの提案>

※住民基本台帳を基に推計

《地域の魅力》	「海の資源（景観、海浜公園、海産物）」 「ブランド米を育む豊かでのどかな田園環境」 「住みやすさ（治安の良さ、市街化していない住環境）」
《20年後の地域の将来イメージ》	「住みやすい 来やすい 遊びやすい ～WAい WAい で GO GO～」

2 まちづくりの方針

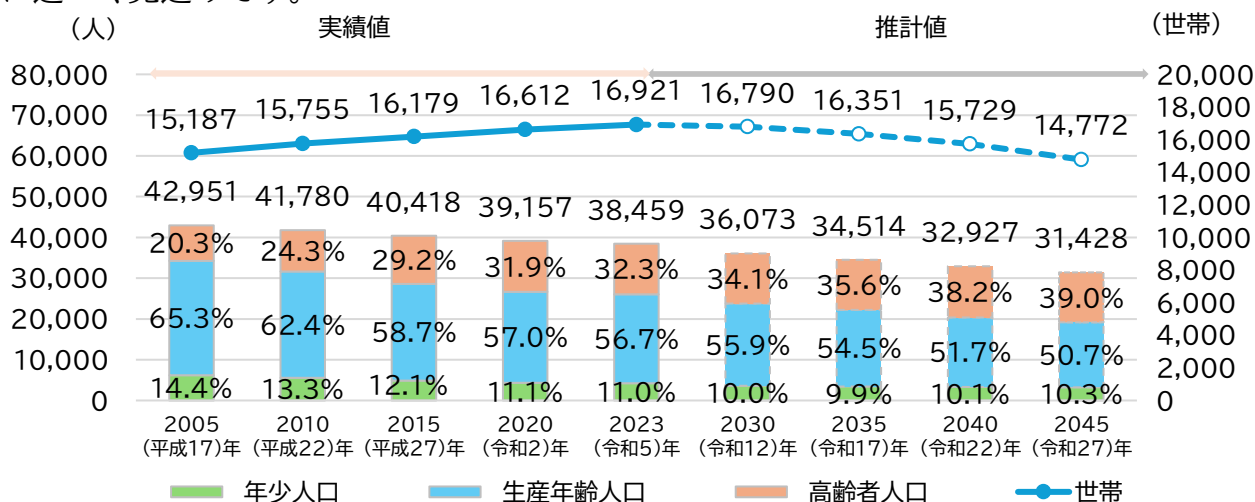
- i) 海辺の自然環境やレクリエーションの場を活用した地域拠点の形成
 - ・和合コミュニティセンター周辺での生活機能の維持と、海辺の環境や公園などのレクリエーションの場を活かし、市民や来街者の都市活動を生み出す地域拠点を形成します。
- ii) 公共交通の活性化と連携した良好な居住環境の形成
 - ・富山港線に接続するフィーダーバスの活性化等と連携して、沿線の諸機能を活かし、また既成市街地の更新を促すことで、良好な居住環境を形成します。
- iii) 拠点などを結ぶ公共交通や主要な道路の適正な保全や整備
 - ・和合コミュニティセンター周辺の市街地や既存集落等を結ぶ公共交通や主要な道路を適正に整備・保全し、周辺地域との円滑な移動環境を形成します。
- iv) 海岸などの自然環境や水田など営農環境の保全
 - ・海岸などの豊かな自然環境や水田などの営農環境の保全を推進します。
- v) 富山港や国道8号との結節性を活かした産業集積の保全
 - ・富山港や国道8号との結節性を活かし、産業集積の保全を図ります。
- vi) 安全・安心なまちの形成
 - ・津波などの災害リスクの回避や低減、社会インフラの適正な維持管理を推進します。

1 地域の現状

幹線道路沿いにスーパー等が立地し、岩瀬港や海水浴場、温浴施設、大規模なスポーツ公園や野球場等の施設があり、さらに古くから栄えた岩瀬には、歴史的な街並みや祭り、酒蔵等があります。また富山港と結節した工業団地やエコタウンなど産業も集積しています。

<人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し>

人口は減少傾向で、2023（令和5）年の人口は38,459人、高齢化率が32%と3割を超えています。今後も人口は継続して減少し、世帯数も減少に転じ、高齢化率も4割に近づく見込みです。



<市民ワークショップでの提案>

※住民基本台帳を基に推計

《地域の魅力》	「海の観光資源」「岩瀬を中心とした歴史文化資源」 「公共交通の利便性の良さ、住みやすさ」
《20年後の地域の将来イメージ》	「海を五感で楽しむ 住みよい街」

2 まちづくりの方針

i) 歴史文化資源を活かした富山港線沿線での生活拠点の形成

・富山地方鉄道富山港線東岩瀬駅から萩浦小学校前駅周辺において、公共交通の利便性と充実した歴史文化資源を活かし、また商業施設などの生活サービスや文化・交流機能の維持や充実を図ります。

ii) 公共交通の活性化と連携した良好な居住環境の形成

・あいの風とやま鉄道や富山港線の活性化と連携して、沿線の諸機能を活かし、また既成市街地の更新を促すことで、良好な居住環境を形成します。

iii) スポーツ施設や沿岸のレジャー施設を活かしたスポーツ・レクリエーションの場の形成

・岩瀬スポーツ公園やアルペンスタジアム、沿岸の海水浴場やキャンプ場、温浴施設等を核に、市民や来街者がスポーツやレクリエーションに親しめる場を形成します。

iv) 海岸などの自然環境や水田など営農環境の保全

・海岸などの豊かな自然環境や水田などの営農環境の保全を推進します。

v) 富山港や国道8号との結節性を活かした産業集積の保全や誘導

・富山港や国道8号との結節性を活かし、エコタウンをはじめとした産業集積の保全や誘導を図ります。

vi) 安全・安心なまちの形成

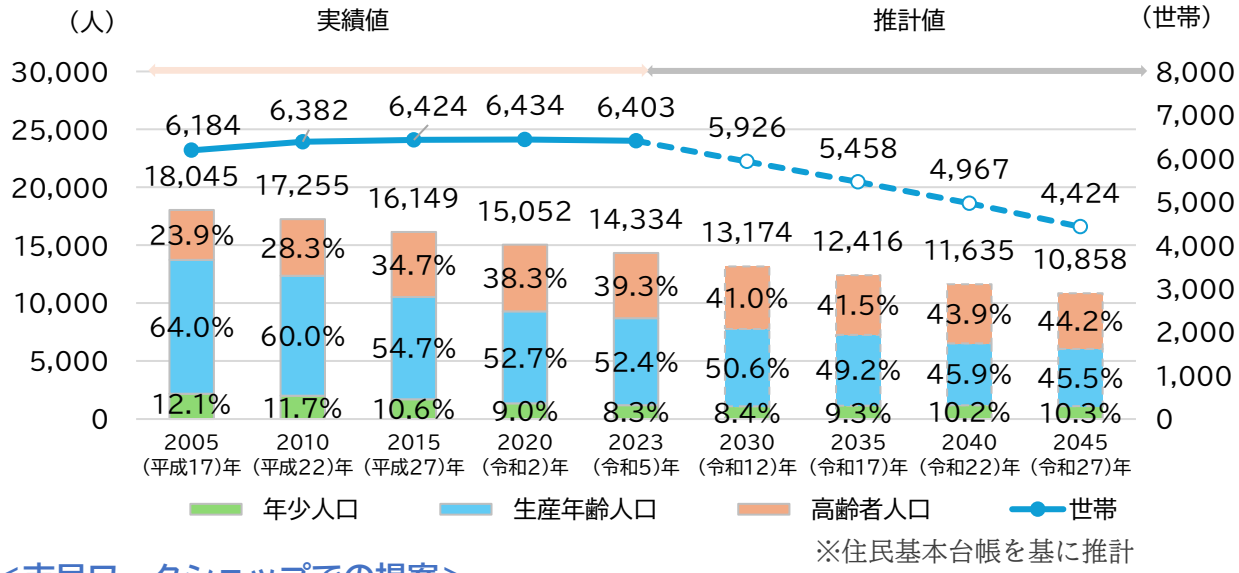
・津波などの災害リスクの回避や低減、社会インフラの適正な維持管理を推進します。

1 地域の現状

沿岸部を中心に市街地が形成され、漁港や温浴施設などがあるほか、水橋駅周辺や国道8号沿道には企業団地が立地しています。また白岩川の水辺など豊かな自然環境もあり、地域の南部には田園が広がり、スマート農業の導入に向けた圃場整備が進んでいます。

<人口・世帯・年齢3区分割合の推移と見通し>

人口と世帯数は既に減少傾向にあり、2023（令和5）年時点で14,334人、高齢化率は39%と高くなっています。今後も、人口は・世帯数ともに減少し、高齢化率も4割を超える見込みです。



<市民ワークショップでの提案>

《地域の魅力》	「自然（海、山、川、風景、眺望）」 「住みやすさ・暮らしやすさがある（複数の公共交通）」
《20年後の地域の将来イメージ》	「LOVE・元気・かけはし水橋」（みずみどりが映える、笑顔があふれる、変化を恐れない楽しむ、「よかったね水橋」）

2 まちづくりの方針

i) 豊かな自然環境やレクリエーションの場を活用した地域拠点の形成

- ・あいの風とやま鉄道水橋駅周辺での生活機能等を維持するとともに、水橋漁港や白岩川周辺の水辺空間、新たな公園などの自然環境やレクリエーションの場を活かし、市民や来街者の都市活動を生み出す地域拠点を形成します。

ii) 公共交通の活性化と連携した良好な居住環境の形成

- ・あいの風とやま鉄道や富山地方鉄道本線の活性化と連携して、沿線の諸機能を活かし、また既成市街地の更新を促すことで、良好な居住環境を形成します。

iii) 拠点などを結ぶ公共交通や主要な道路の適正な保全や整備

- ・あいの風とやま鉄道水橋駅周辺の市街地や既存集落等を結ぶ公共交通や主要な道路を適正に整備・保全し、周辺地域との円滑な移動環境を形成します。

iv) 海岸などの自然環境や水田など営農環境の保全

- ・海岸などの豊かな自然環境や水田などの営農環境の保全を推進します。

v) 国道8号との結節性を活かした産業集積の保全や誘導

- ・国道8号との結節性を活かし、産業集積の保全や誘導を図ります。

vi) 安全・安心なまちの形成

- ・津波などの災害リスクの回避や低減、社会インフラの適正な維持管理を推進します。

